

# パナソニックグループの 環境DDの取組み

2024年3月18日

パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社

品質・環境本部 環境経営推進部

福島 由紀

# 本日お話ししたいこと

## 1. パナソニックグループの環境取り組み

- ① パナソニックのグループ体制
- ② Panasonic GREEN IMPACT
- ③ サーキュラーエコノミーの取り組み

## 2. DDの取り組みと課題

- ① 環境配慮商品（グリーンプロダクツ）
- ② ECO VC活動
- ③ サプライヤー様との新たなエンゲージメント
- ④ DDの取り組み体制

# 本日本話したいこと

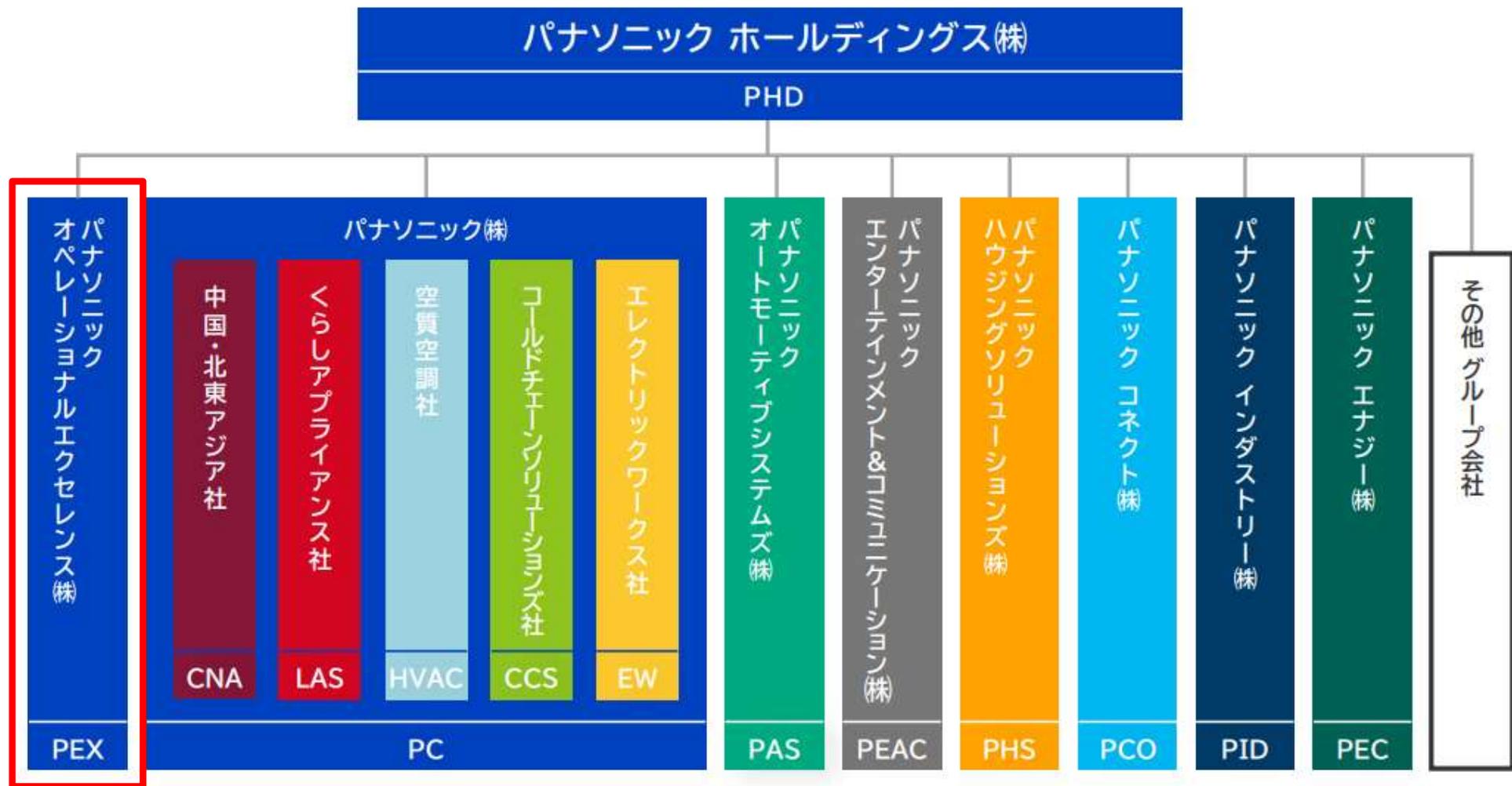
## 1. パナソニックグループの環境取り組み

- ① パナソニックのグループ体制
- ② Panasonic GREEN IMPACT
- ③ サーキュラーエコノミーの取り組み

## 2. DDの取り組みと課題

- ① 環境配慮商品（グリーンプロダクツ）
- ② ECO VC活動
- ③ サプライヤー様との新たなエンゲージメント
- ④ DDの取り組み体制

# パナソニックのグループ体制



各事業会社が独立した法人として社会やお客様と向き合い  
自主責任経営を徹底 競争力強化を加速

\* 各社名下部の英語表記は略称



創業者 松下幸之助

1932年 第1回 創業記念式

「精神的な安定と、物資の無尽蔵な供給が相まって、初めて人生の幸福が安定する。」

使命

「物と心が共に豊かな理想の社会」を  
各世代が受け継ぎ 250年かけて実現する

今から160年先にも人々がウェルビーイングであり続けるためには  
地球環境問題の解決が最重要課題

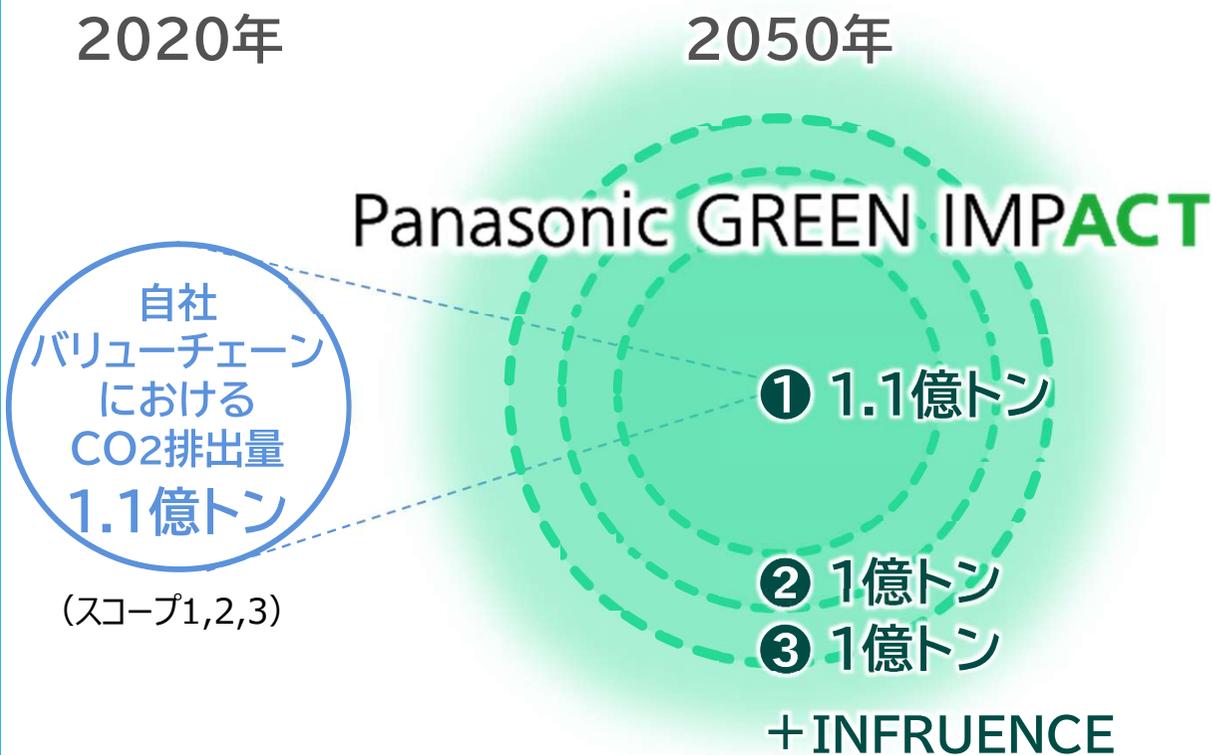
グループ長期環境ビジョン

Panasonic GREEN IMPACT

# Panasonic GREEN IMPACT

2022年  
4月1日発表

自社排出の実質ゼロに加え お客様や社会のCO<sub>2</sub>削減に貢献  
社会のエネルギー変革にインパクトを与える長期環境ビジョン



## スコープ1,2,3排出量の実質ゼロ化

### ① OWN IMPACT

社会の脱炭素効果も含めた、  
自社バリューチェーン(VC)における  
排出削減インパクト

### ② CONTRIBUTION IMPACT

既存事業による社会への  
排出削減貢献インパクト

### ③ FUTURE IMPACT

新技術・新事業による社会への  
排出削減貢献インパクト

## 「削減貢献量」の拡大

### + INFLUENCE

社会のエネルギー変革に対する  
波及インパクト

スコープ1, 2, 3 実質ゼロ化の責務とともに  
社会へのCO<sub>2</sub>排出削減貢献を加速し 地球環境問題の早期解決を目指す

# PGIの実現に向けて：2030年マイルストーン

## GREEN IMPACTの解像度向上

2022年  
7月13日発表

2030年には自社排出のゼロ化を達成に加え  
約1億トンの削減貢献の実現を目指す

スコープ1,2 ■ スコープ3 ■  
OWN IMPACT ■  
CONTRIBUTION IMPACT ■  
FUTURE IMPACT ■

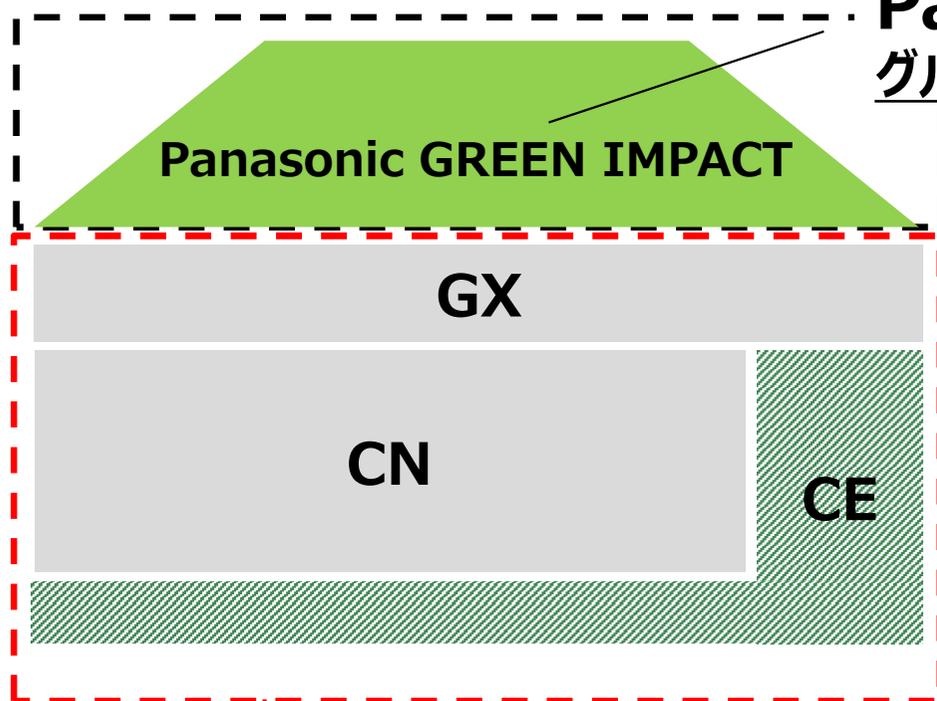


\* 製品の買い替え等によるCO<sub>2</sub>削減貢献量(2020年度 1,099万トン・2024年度 630万トン)を含む

# サーキュラーエコノミー（CE）に向けた取り組み

## Panasonic GREEN IMPACT

グループ全体の経営戦略 = 本業での社会課題解決



Panasonicが地球環境問題解決に向けた優先取り組み事項は、  
カーボンニュートラル（CN）とサーキュラーエコノミー（CE）

Panasonic GREEN IMPACT拡大の為にグリーンTRANSフォーメーション（GX）における  
CEの位置づけを明示する為、2023年12月に「サーキュラーエコノミー グループ方針」を策定

# CE グループ方針

**Panasonic GREEN IMPACT**は、地球環境問題に正面から向き合い、様々な事業活動のインパクトを拡げることで、その解決に貢献していくという決意を込めた、パナソニックグループの長期ビジョンです。私たちは、資源効率が高まることで脱炭素化に寄与するとともに、地球上の限られた天然資源の消費を削減することが必要であることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献するため、パナソニックグループのサーキュラーエコノミー方針を定めます。

サーキュラーエコノミーは、製品ライフサイクル全体で、材料資源の最も効率的な利用を目指す経済システムです。パナソニックグループ各社は、以下の循環の原則に基づき、それぞれの事業特性に合わせたアプローチや、目標、個別の行動計画を定めます：

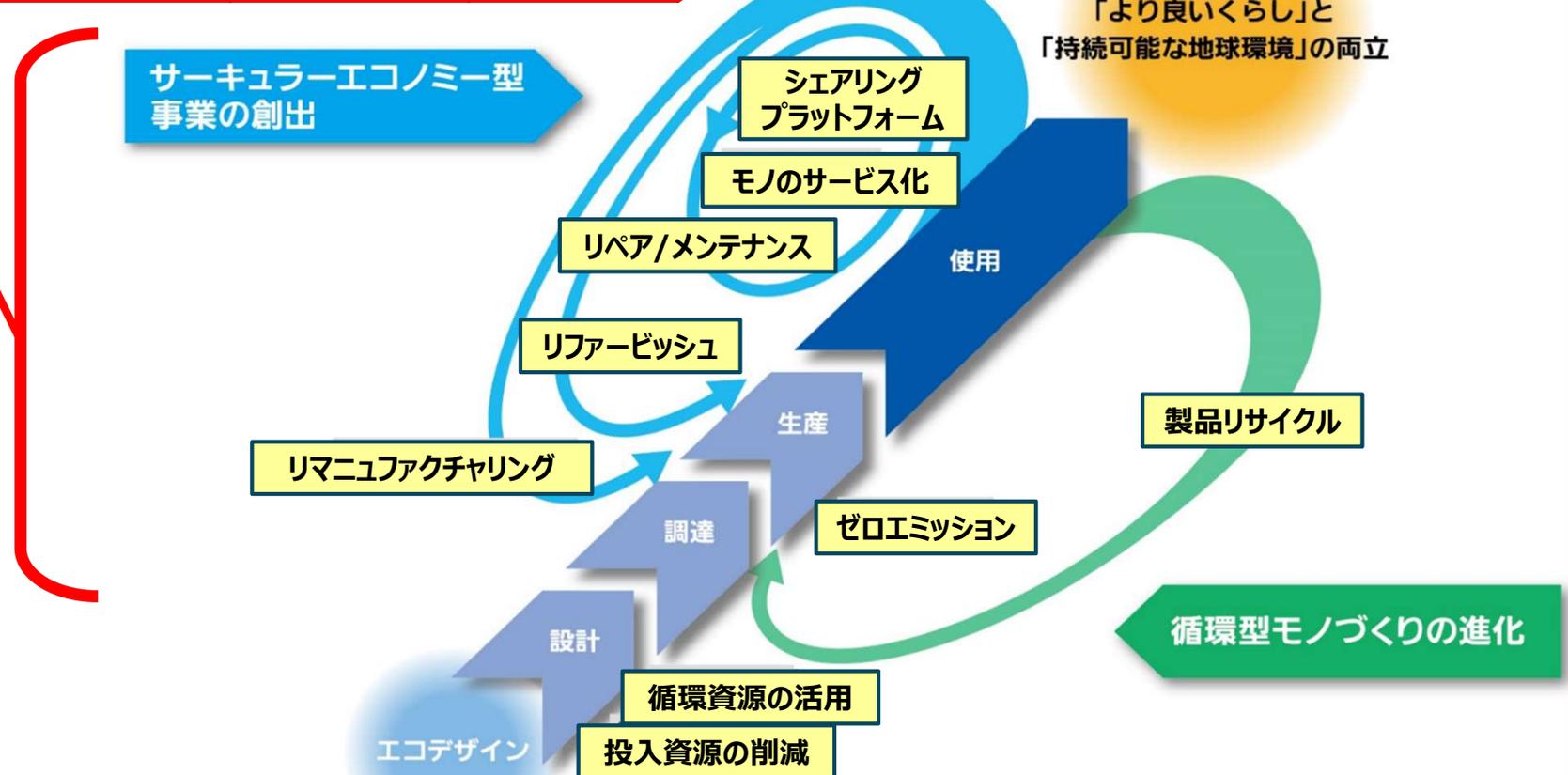
1. 製品をお使いいただける期間を出来るだけ延ばし、ライフサイクルを通じて資源の生み出す価値を維持し高めていきます。そのために、製品設計やデザイン、ビジネスモデルをサーキュラー型に変革、サービスを拡充すると同時に、リサイクル活動にもさらに力を注ぎます。
2. 材料の使用を最小化するとともに、リサイクル材料や再生可能材料の使用割合を拡大します。
3. 顧客やパートナーと協力して、循環志向の経営、情報共有、製品使用の新しいあり方を共につくります。

パナソニック内外におけるグリーントランスフォーメーション（GX）の一環として、このサーキュラーエコノミー方針を策定することにより、私たちはリニア型からサーキュラー型ビジネスへの転換を推進していきます。

# サーキュラーエコノミー型事業新規立ち上げに向けた取り組み

項目		2022 実績	2024 目標
<b>GREEN IMPACT PLAN 2024</b>			
資源/CE* *Circular Economy	工場廃棄物のリサイクル率※4	99.0%	99%
	再生樹脂の使用量※5 (GIP2024目標は2022-24年度計)	1.24万トン	2022-24計 9万トン
	<b>サーキュラーエコノミー型 事業モデル/製品 (累計)</b>	<b>10 事業</b>	<b>13 事業</b>

(参考) パナソニックグループの  
サーキュラーエコノミー取り組みコンセプト



# サーキュラーエコノミー型 事業モデル/製品

10

## ■リファーマビリティなど新たに4事業が加わり累計10事業※（2024年度目標：累計13事業）

※ 事業化の定義：販売実績があり、かつ社外発信された事業・製品・サービス

① 冷凍冷蔵ショーケースのサブスク事業	エネルギーマネジメント、故障モニタリング 等
② 医療向けクーラーボックスのサブスク事業	医療向けクーラーボックス(VIXELL)のサブスク&CE要素を含む製品設計
③ あかりEサポート事業	B2B顧客向けの 照明のサブスク事業
④ PCのサブスク事業での電池管理事業	PCサブスク事業の中でバッテリーの管理事業を新追加
⑤ 所有建物の有効活用	当社グループ建物資産の改修による新事業化(TENNOZ Rim)
⑥ セルローズ混合樹脂	セルローズ複合樹脂の技術開発およびその販売、技術展開
⑦ ローソン様とのリファーマビリティ事業	中国におけるコンビニ店舗設備のリファーマビリティ事業モデル
⑧ 家電のサブスク事業(noiful)	賃貸住宅向け 家電製品のサブスクおよびリフォーム事業
⑨ 工場廃材の部材への活用	工場排出物を新製品の部材に活用し、パートナー企業が商品化・販売
⑩ 乾電池の紙パッケージ採用	乾電池（単三・単四）の包装の脱プラスチック化

新



⑦ ローソン様のプレハブ店舗  
(中国)



⑧ 家電サブスクリプションサービス  
Noiful (写真はイメージ)



⑨ 工場廃材を製品部材に活用  
した製品群 (TENNOZ Rim)



⑩ 乾電池の紙パッケージ

## 【サーキュラーエコノミー型事業推進における課題】

- ・消費者の行動変容がないと、ビジネスの収益に繋がりにくい。
- ・廃棄物の海外流出による、リサイクル資源の調達ソース不足  
グローバルな資源循環に関する法規制施行による価格高騰が懸念事項

## 【当社の消費者行動変容に向けた取り組み事例】



大阪・関西万博  
パナソニックパビリオン  
(ノモの国) は、**使用済みの家電から回収したリサイクル鉄・銅や工場から出る端材・廃材などを活用した、資源循環型の建築を実現。**循環の考え方を子供たちが体感できる**展示やワークショップ**を実施予定。

# 本日は話したいこと

## 1. パナソニックグループの環境取り組み

- ① パナソニックのグループ体制
- ② Panasonic GREEN IMPACT
- ③ サーキュラーエコノミーの取り組み

## 2. DDの取り組みと課題

- ① 環境配慮商品（グリーンプロダクツ）
- ② ECO VC活動
- ③ サプライヤー様との新たなエンゲージメント
- ④ DDの取り組み体制

# 環境配慮商品（グリーンプロダクツ）の取り組み

## 【取り組み背景】

1991年 グループとしての環境保全への姿勢を明示した「**松下環境憲章**」を制定  
→製品アセスメントの推進

- ・製品の環境負荷低減を目指して、設計段階での製品アセスメントを推進  
アセスメントの基準となる「松下製品アセスメント」で製品の省エネ、省消耗材、  
環境負荷化学物質、生産工程に関する項目などを明示



## 「**グリーンプロダクツ（GP）**」に発展

製品環境アセスメントの項目は、製品本体、生産工程のみならず、包装、  
取扱説明書、LCA評価、情報管理に拡大



## GPの取り組みがグループ内で定着

事業会社化に伴い、個々の事業会社が実施するフェイズへ移行  
パナソニックグループとしては、個々の製品ということではなく、グループ全体として  
SBTiの1.5℃目標の達成と、PGIの目標である2050年ネットゼロを目指すフェーズへ

## 【課題】

- ・さらなる省エネ製品の開発・普及拡大にくわえ、グリッド電力の脱炭素化

# 購入先との協働 ECO・VC (Value Creation) の取り組み

## 【取り組み背景】

## 2009年 ECO・VC活動本格始動

全世界の購入先様と協業し

原材料からモノづくり・納品までのサプライチェーンでCO<sub>2</sub>の削減を呼びかけ積極的に提案を募りエコ商品としての商品力強化重点取り組み活動をスタート

**Panasonic GREEN IMPACTと連携し、2024年度、15年目に突入**



09年

## 09年度 ECO・VC活動を実践

戦略  
パートナー  
購入先様



パナソニック  
株式会社  
各機能本部

09年度も引き続き 各機能の皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

2008年

10月 【ECO・VC活動】を起案、プロジェクト発足

11月 エクセレントパートナーズ ミーティングで趣旨説明・募集開始

2009年

5月 購入先様より512件の提案応募

6月 ドメイン選抜で48件選出、一次審査で15社

最終審査会にて15社が発表（金賞受賞3社）

11月 パナソニック エクセレントパートナーズ ミーティングで表彰  
金賞2社の代表者様より

「わが社のECO取り組み」をご講演

2021年

5月 オンライン形式にて1次審査会・最終審査会を運用を確立

2022年

1月 Panasonic GREEN IMPACT制定、ECO・VC活動連動開始

2023年

4月 提案件数累計10,000件を突破

2024年

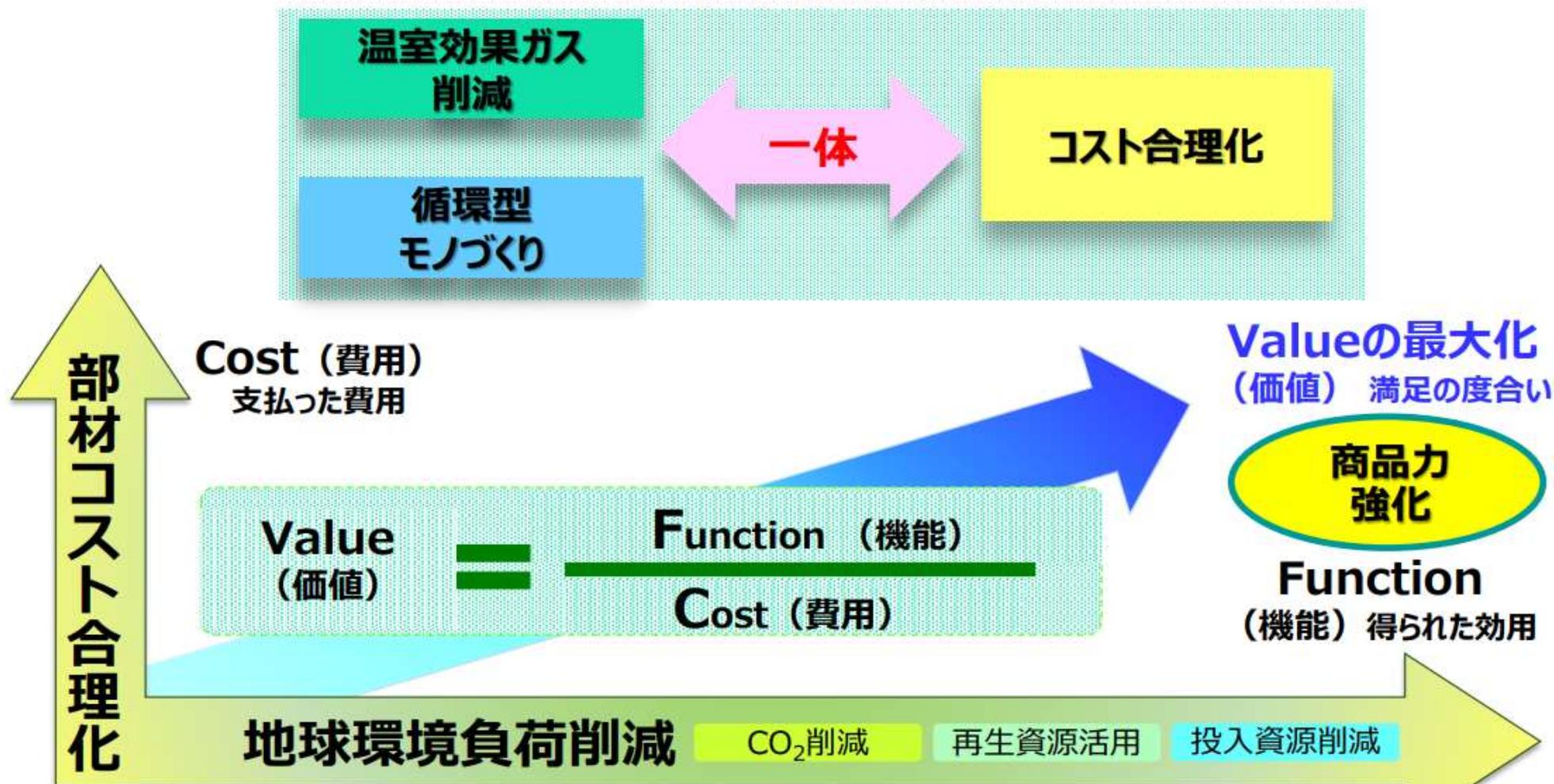
1月 活動名称をECO・VC活動から**ECOVC**へ

\*VCとは『Value Creation (バリュー・クリエーション)』の略

# ECO VCコンセプト

調達活動において、製品や購入先様における環境配慮活動を通じて、

**「温室効果ガス削減」**・**「循環型モノづくり」**・**「コスト合理化」**の  
一体化を目指す取組み



審査の上、全応募の中から優秀事例に**金賞・銀賞・銅賞**

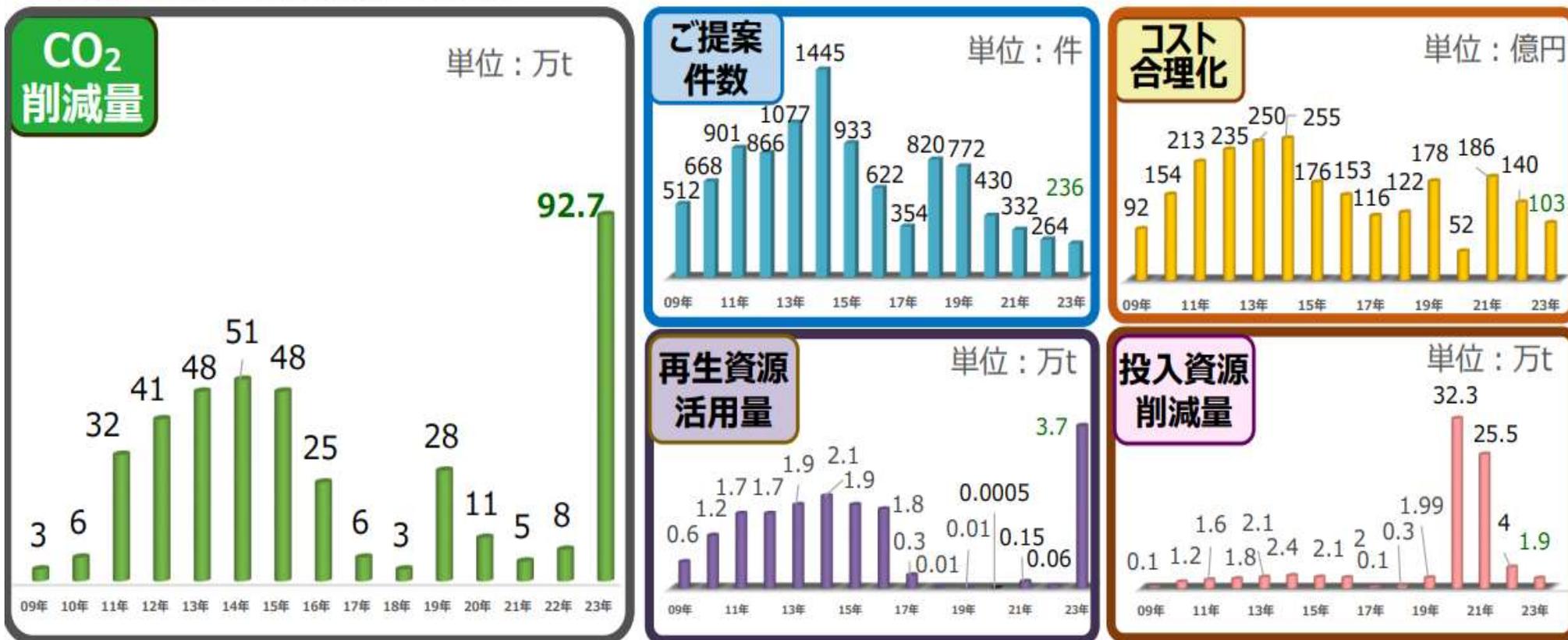
キーワード	取組みと成果の事例
Panasonic GREEN IMPACT	脱炭素化とCO <sub>2</sub> 排出量の削減を推進・実現
製品の省電力化	・効率を15%向上した電源ユニットを開発 ・特殊マイコン開発で、待機電力0.1W以下を実現
製造工程(工場)の省電力化	・加熱炉への断熱材導入等の省エネ取組みにより、チップ抵抗製造時の電力を20%削減
再生可能エネルギーの導入	・モータ製造工程の電力を太陽光発電（再エネ）100%の電力に切替え
小型化・軽量化・標準化・共用化	・LSIのパッケージを15%小型化 ・チップシュリンク化 ・カバー/ケースを共用化し新規金型を削減
省資源	・投入資源を削減、100%リサイクル材の活用 ・通い箱を使用することにより梱包費用削減
リサイクル材・素材代替・単一素材化	・筐体の樹脂に再生樹脂を20%使用 ・配管の材料を銅から鉄に変更し、大幅な合理化を実現
新素材使用	・熱伝導性に優れた新素材を放熱板に採用し、冷却ファンを廃止、コンデンサを標準品に変更
部品点数削減	・金型、プレス工程の改善により構成部品の一体化に成功し、部品点数を25%削減
輸送の効率化・直送化、ラウンド輸送	・積載率向上、共同輸送、まとめ輸送等 ・消費地への直送推進や帰り便の活用等
梱包改善	・輸送・保管最適サイズ化、省資源梱包によるダウンサイズ、材料の見直し等
モーダルシフト・新輸送ルートの開発	・トラック⇒鉄道、船舶などへの輸送のモード変更 ・AIR輸送を削減、リードタイム短縮等に貢献
低公害車・バイオ燃料	・エコトラックの導入、エコドライブの推進等、バイオ燃料の導入・拡大
倉庫スペースの有効利用	・保管効率の向上、拠点集約、不良品在庫の撲滅等
物流品質の改善	・事故削減対応策実施によるロスの低減
IT技術の活用	・RFIDタグ活用、貨物追跡システム構築等
その他	・ウエルドレス成形の完成により、筐体の塗装をやめVOC、CO <sub>2</sub> の削減を同時に達成

# 2023年度実績

~~2023年度 提案件数 236件 コスト合理化 103.3億円~~  
 ECOVC 累計提案件数 10,232件 コスト合理化 2,506.2億円

2023年度CO<sub>2</sub>削減量 **92.7万トン** (実績) **432.6万トン** (累積)

## ■ 削減実績・ご提案件数推移



432.6万トンは2050年までの調達部門での削減ターゲット(2,155万トン)の**約20%相当**

## 【課題】

- ・取引先の環境負荷削減に関する更なる意識向上

## 新たなサプライヤー様へのインセンティブの導入

2024年度 ECOVCで金賞・銀賞・銅賞に入賞された購入先様には  
パナソニックグループ技術者をターゲットにしたPR機会をご用意

金賞受賞の購入先様は優先対応



<https://news.panasonic.com/jp/topics/204036.html>

技術交流会/Webセミナー



バーチャル展示会



個別紹介



## グローバル全てのサプライヤー様と共に、カーボンニュートラルを目指すための新たな取り組みを開始

※「Panasonic GREEN IMPACT」の趣旨に賛同し、当社グループに納入頂く製品、サービスの原材料から生産・納品に至るまでのCO2 排出量の削減活動を、協同で推進して頂くことへの理解・協力を依頼するレターを送付開始

**Panasonic**

購入先各位

2024年1月5日

パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社  
グローバル調達本部 本部長 三好 満

### 「Panasonic GREEN IMPACT」の取り組みに対するご理解のお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

創業以来、弊社パナソニックグループ（以下「当社グループ」）の使命は、「物と心が共に豊かな理想の社会」の実現です。その実現に向け、当社グループは地球環境問題解決を最重要課題と捉え、2022年に環境に関する長期ビジョンである「Panasonic GREEN IMPACT」（以下「PGI」）を発信いたしました。詳細に

PHD サステナビリティ経営委員会

PHD クロスファンクショナル準備検討チーム

情報開示プロジェクト

経企・経理・IR・CSR・環境・  
欧州子会社

法定開示に効率よく対応できるよう  
機能横断で議論・決断

デューデリジエンス  
プロジェクト

人事・法務・調達・CSR・  
環境・欧州子会社

DD実践に必要なテーマごとに  
各機能横断で社内システムを構築

事業会社

Panasonic

GREEN

IMPACT